

あなたは今、無事「**国際貿易論**（木1：江口先生）」の授業の部屋に入っています。

- 今接続しているWi-fi等の料金（ネットの通信費）は大丈夫ですか？
- 途中で「出席」をとる必要があるなので、学生は「学籍番号・名前（例えば**2012345産大太郎**）」という名前で**Zoomにログイン**し、入室してください（この授業に参加して下さい）。
- **音楽**を流していますので**ボリュームを調節**してください。
- 9時15分になったら画面が「江口研究室の江口先生画像」に切り替わります（授業は「**生放送**」で行われます）。
- 学生は「**自分の画像（自分の顔）**」が「Zoom画面上」で「ちゃんと映っている状態」で9時15分が来るのを待っていて下さい。



国際貿易論2020

- 木曜2限
- B y
- 江口潜
- (新潟産業大学経済学部准教授)

まず、冒頭、学生諸君に確認です。

1) 学生は、今、この授業を受けているネットが、「**使い放題という料金プランのインターネットプロバイダーサービス**」もしくは、「マクドナルド」などが提供しているような「**接続し放題の、Wi-fi**」などを通して接続しているのかどうか、確認して下さい（認識して下さい）。

学生が、「よくわからないまま、とにかくオンライン授業に出席しなくっちゃ、といって「**使い放題・接続し放題の、Wi-fi、ではないインターネット接続をして、それこそ何十万円、といった巨額のネット接続料金**」でも請求されたりなんかしたら悲劇なので十分注意して下さい。

2) 学生は、私の声がきちんと聞こえていますか？ボリューム調整、大丈夫ですか？

ちょっとだけ時間をあげますので、ボリュームをあげたい（聞こえてくる私の声を大きくしたい）学生は、これから「**1から10まで数字を数えます**」ので調整してみてください。

出席の取り方について

- 「国際貿易論」では「2通りの方法」で、出席をとろうかと思っています。
- 1つ目は（授業の途中で休憩を挟むので、その際に）画面を通じて出席を確認
- 2つ目はZoomの「チャット機能」を使って出席の確認
- （出席の取り方は先生によって異なりますので、注意してください）

1) 休憩時に行く「画面を通じての出席の確認」とは？

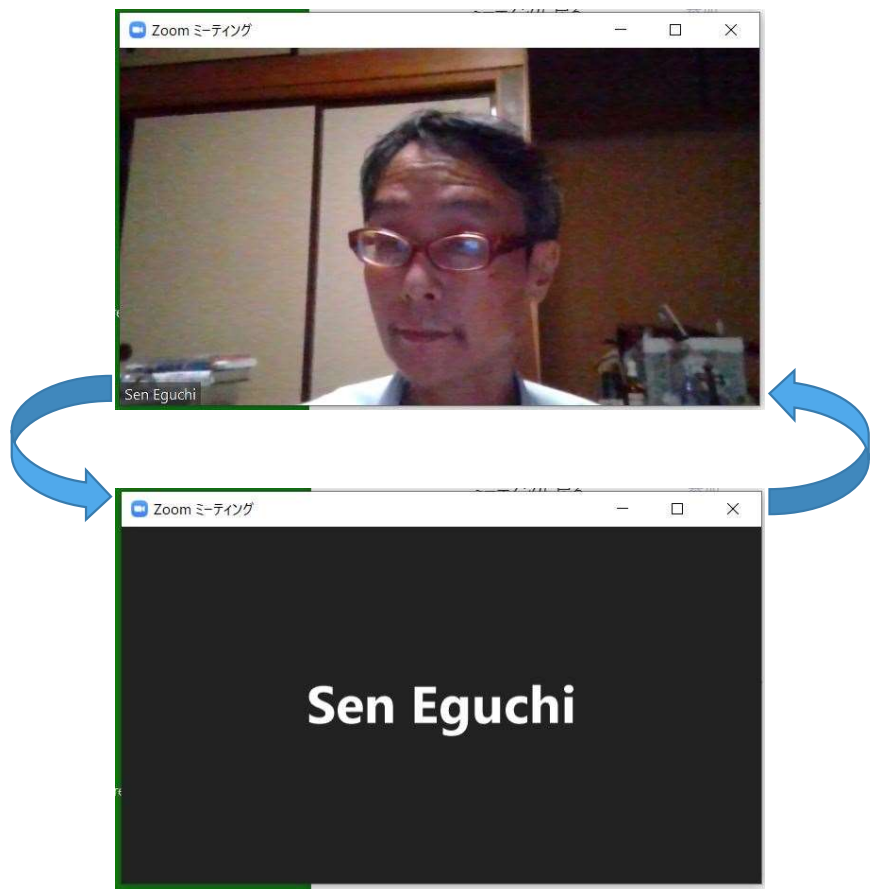
学生は、私の授業の際には、普段は必ず顔が見える状態にしてください。



Zoomを使って授業をしていると学生も疲れてくると思いますので、ときどき授業に「1～2分程度の休憩」を挟みます。休憩時間中は「ビデオの停止」をしてもらいます。（すると**学生の名前だけが映ります**ので）、その間に私が「だれが出席をしているかをチェック」します。



なお、学生は、私が出席を取っているとき以外（つまり休憩の時以外）は必ず**顔が映る（移り続ける）**ようにしてください（でないと、サボっているとみなします）。



の切り替えは

このボタンを押す（クリックする）ことで、切り替わります。

2) Zoomの「チャット機能」をつかったの出席の確認



学生は、チャットをONにして、
「学籍番号と氏名」を
例えば
2012345産大太郎
みたいな感じで、入力してください。

するとそのような文字（学籍番号と
名前）は**ずっと「チャットログ」**として
残りますので、それを**あとで**江口が
チェックし「2012345産大太郎君は授業に
いたんだな」といった具合に確認します。



このボタンを押す（クリックする）と、
チャット機能（文字を打ち込んで、文字
画面で対話できる機能）がONになり、
画面右側に「チャット画面」が現れます。

あと、

1) 授業の資料は、以下のホームページにあります。

<http://www.nsu.ac.jp/official/fa/eguchi/index.html>



2) **授業についての連絡**（レポートや課題の**メールによる提出**を含む）は

○ eguchi@st.nsu.ac.jp（授業専用のメールアドレス）

✕ eguchi@econ.nsu.ac.jp

に送って下さい。

ここまでの話を聞いて、「わかりました」という人は、



このボタンを押すと「拍手」と「賛成」のマークが出てくるので「拍手」のマークを押してください（すると数秒間、「拍手」のマークが画面左上に出ます（その後自動的に消えます））。

はじめに

目次（国際貿易論2020本日のお題）

（第1回：2020年5月14日）

1）国際貿易論は「どんな授業」なのか、ということの説明

それを受けて、

2）そもそも、ミクロ経済学とは、どういう学問なのか？というお話

（初回の授業での「定番の話」です）

3）それでも時間が余ると思うので、初日から申し訳ないが、
ちょっとだけ、「**数学のお勉強**（とりあえず今日は聞き流すだけで、いいからさ。。。）」
のお話。

国際貿易をめぐるいくつかの問い

コロナウィルスが世界に広がる前の世界、トランプ大統領のアメリカと習近平の中国とは実は貿易戦争をやっていた（そのことを、覚えているかな???)

トランプ大統領は中国からアメリカに輸入される「**made in China**」の製品に対して関税をかける（・・・厳密にいうならば、低い率の関税をかけていたところを、高い率の関税にあらためる、つまり税率を上げる）と言って「有言実行」していた。

関税（かんぜい）って、そもそも何さね？

輸入品に対して、買う側（輸入する側）の政府が（強制的に）かける税。払うのは買う人（つまり輸入する国の人）。その税金を受け取るのは輸入する国の政府。

アメリカが「**中国からの輸入品**に対して関税をかける」といったら、**アメリカに無事に運び込まれた中国製品**に対して（アメリカ政府が税金をかけ）それでも「買いたい」というアメリカ人が、その税金を（まさにそれを買うときに、関税も一緒に）**アメリカ政府に払う**、というわけ。

アメリカの消費者にとっては「なんだ、せっかく安い輸入品が、関税のおかげで高くなる」ということになるが、その「高くなった分」は**アメリカ政府のふところ**に入る。

消費者にとっては関税は「チェッ！」という感じになる。一方アメリカの生産者にとっては「市場競争をするにあたって、**かばってくれた（まもってくれた）**」ということになる。

ここで早速ワンポイント：「関税とは」

そんなわけで、**関税**というのは、

・ **輸入されてくる製品に対して**、それが押し寄せてくる側の政府がかける（販売時に、「**払いなさい**」と**いって払わせる**）税金

「**アメリカが中国からの輸入品に関税をかける**」

とは

「**中国からアメリカに輸入される製品をアメリカ人が購入使用とする際に、アメリカ政府が、アメリカ人に**

『**それを買うときに、アメリカ政府にもお金を払え**』
と**いって強いる税金**

なので、**関税収入は、（中国ではなく）アメリカ政府に入る。**

アメリカ人にとっては、消費者の立場としては、
嬉しくない（だって、**関税分、値上がりしてしまうから**）

生産者の立場としては「助かる」

（だって、ライバルである中国製品の値段を、政府が
関税分、つり上げて、買いにくい製品にしてくれる
のだから。

もう少し身近な例でいうと・・・

日本の政府は、フランスやドイツから輸入される**ワイン**に「関税」をかけています。

その場合、

関税を課される「ブツ」は

「フランスやドイツから輸入されるワイン」

関税を払うのは、日本人（その際

「くっそ、関税の分、フランスやドイツのワインの値段が高くなってしまっているじゃないか」

などとぼやく人が多い)

その（日本人が払った）関税を「受け取ってホクホクする」のは「日本政府」

フランスやドイツのワインの作り手さんは、というと、「せっかく自分たちがある値段で、日本向けにワインを売った（仲買人に売って、出荷してもらった）のに、日本政府が関税をかけて、（日本人にとって）ワインの値段を高くした。そのため売れ行きに悪影響がでてしまう（思ったほどの量が買ってもらえない）」という、どこか「商売の邪魔」をされる感覚になる。

その一方で、山梨県などで「日本製のワイン」を作っている農家の人にとっては「日本政府が関税によって、日本製のワインを「守ってくれた。助けてくれた」ということになる。

ということは、関税というのは、
いいことなのか、悪いことなのか・・・

もし君が、**山梨のワイン作り**をしている**企業**に**就職**したい、と
思っていたとするならば、君は**どう答える？**

もし君が、（フランスやドイツのワインをたくさん
日本人に売りたいと思っている、**日本の**）
コンビニ運営会社に**就職**したい、と思っていたとするなら
君は**どう答える？**

関税をかけることは、実は「正しい」事なのかも知れない・・・

だって、日本の産業を「守ってくれる」のだから。

いやいや、関税は「けしからん」事だ・・・

だって、消費者は安くて（まあまあ）良いものを
手に入れにくくされて、不満がたまるじゃないか！！！！

「米どころ新潟」に住んでいると、関税は大問題です。

新潟県にいと、TPPという、「関税をやめましょうね」という国際的な取り組みの輪の中に
「日本も加わりましょう。当然、農業についても。」と
いったことは、まことに切なる大問題です。

新潟県にある新潟産業大学は、TPPには、
賛成なののでしょうか、それとも反対なののでしょうか？

ちなみに新潟産業大学にはTPPについては「賛成」という論を
述べられていた方もいらっしゃいます。私個人は、正直、
「賛成」と言う「度胸」は、ありません（でした）。

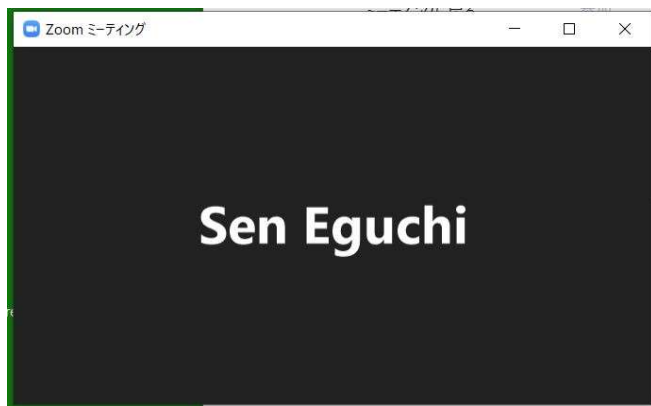
ここで、試しに「出席をとって
みる」ことにします。

3) 出席の取り方について (さっきとほとんど同じスライド)

学生は、私の授業の際には、普段は必ず顔が見える状態にしてください。



Zoomを使って授業をしていると学生も疲れてくるとお思いますので、ときどき授業に「1~2分程度の休憩」を挟みます。休憩時間中は「ビデオの停止」をしてもらいます。(すると**学生の名前だけが映りますので**)、その間に私が「だれが出席をしているか、デジカメでパソコンの画面の写真を撮って記録」します。




なお、学生は、私が出席を取りおわった(つまり休憩の時間が終わった)ら、必ず**顔が映る(移り続ける)**状態に戻してください(復帰してください。復帰しない学生は欠席扱いになる可能性があります。)



切り替えは



このボタンを押す（クリックする）ことで、切り替わります。



では約 1 分間、休憩に入ります。

授業の再開は、**およそ 1 分後**です。

(江口先生が再び画面に登場したら再開です。再開後は、学生は自分の顔が画面に映る状態に、切り替えてください。)

ということで、国際貿易論というのは

- 1) 理論的な学問である（実務的には何の役にも立ちません）

その際、「ミクロ経済学」の知識がベースになります。

- 2) 難しいです（楽勝科目ではありません）

経済学部の特門科目の中では「国際貿易論」（あるいは「国際経済学」）という科目は長年、「一番難しい科目」としての「地位」をキープしてきました（本当です）。

- 3) なので成績も厳しいです。

国際貿易論で「A」を取った学生、というのは、「本当にミクロ経済学を理解した学生」ということの印（しるし。サイン。あるいはシグナル）になります。なのでGPAで40%までA評定を出せる場面であっても「40%の受講者にAを出す」とは限りません（ゼロも、ありえます）

- 4) 単位認定方法はシラバスの通り。

ミクロ経済学の内容ですが・・・

ミクロ経済学の内容は、大きく3つ

1つめは 消費者の理論

消費者、というのは、いまこの授業を受けている「あなた」です。

なので、「消費者の理論」というのは、「**あなたが普段どんな感じで日々の生活を送っているか、その姿**」を、説明しているはず、という、「ありがたいのかお節介なのか」「嘘なのか本当なのか」なんとも微妙な立ち位置(?)の、理論。

2つめは 生産者の理論

学生は、アルバイトをし始めて、アルバイト先で何かし始めた途端、生産者の一部になります。

このように、**私たちは普段から「消費者でもあり、時には生産者にもなり」という、ややカメレオンのような存在**、です。

3つめは 市場均衡の理論

市場（市場）というのは、いわゆる「市場主義制度の社会」における日常生活空間全体を、指します。

ミクロ経済学の授業で「市場」と書いて「いちば」と読むことは、基本、「ありえません」。市場と書いたら「しじょう」と読む。そしてそれ（市場）は市場制度の社会の、日常空間、今呼吸をしている、この空間が、「市場」です。

なので例えば「今、自分はアルバイトをしている（あるいは、したい）」という学生は、今、労働市場の中に「います」。

消費者の理論

この授業（ミクロ経済学演習）の履修者は産大の2年生です。なので「基礎ミクロ経済学」2単位を宇都宮先生から習って（おそらく単位を）持っているはずですよ。

なので単刀直入に申しますが、ミクロ経済学の**消費者の理論**というのは、基本的に**単純な内容**であり、そこで語っていることは

人は、「自分の買うことのできる範囲内」で、自分にとって、一番幸せになれるようにいろいろな財やサービスを買っている

ということであり、消費者の理論とはそのような人々の姿をモデルとして「**自分たちはこんな風**にしているんだよね。そうだよな？」と**描き出している**だけ、です。

なので、**ミクロ経済学の第一歩**は、「なるほど、私たちは、実はいろいろな条件のもと、自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動しているな」という認識を持つこと、です。

本当に私たちは「実はいろいろな条件のもと、自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動している」のでしょうか。

実は、答えはイエスです。

本当に、私たちは、実はいろいろな条件のもと、イヤというほど自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動しています。徹底しています。

少し身近な例でいうと・・・

本当に人々は「自分が一番良いようにしよう」としている、その具体例 1

去年と一昨年は、「ミクロ経済学演習」の授業は産大の203教室という「大教室」でやっていました。

すると、受講生（去年やおととしの学生）は、誰一人203教室の最前列には座らず、後ろのほうの座席に肩を寄せ合って、つめて座っていました。

つまり多くの学生にとっては「ミクロ経済学演習」の授業というのは

・先生からできるだけ遠く、また教室の出入り口にも近い、という「後ろのほうの席」であればあるほど、「快適」（つまり「リラックスできて、嬉しい」）であり、

そのため「席が重複しない（バッティングしない）」という制約のもと、お互いにできるだけ「うしろの座席」に座ろうとしあっていた・・・のです。

（そしてそのような姿こそはミクロ経済学が述べる「消費者は、自分の効用が最大になるように行動しようとする」という姿そのもの、です。）

もう少し例を挙げましょう・・・

本当に人々は「自分が一番良いようにしよう」としている、その**具体例 2**

学生さんは現在のコロナ過のもと、仕送りやアルバイトで得たお金（所得）の中から、毎日何かを選んで食べています。

ちゃんと、栄養のあるものを、食べてますか？

このコロナ過のもと、君たち学生の親にとっては君たちが柏崎という地で

「元気なのかな？ちゃんとご飯を食べているのかな？どうなのかな？」

というのが、毎日毎日、「心配で仕方がない」のです。

特に、**男子学生**については、「栄養バランスなんか知ったことじゃない、コンビニ弁当とかスナック菓子とかカップラーメンとか「好きなものだけ、栄養も考えずに、テキトーに食べているのではないだろうか。大丈夫だろうか」と、親は心配しますしています。日々**ヤキモキ**します。

（そしてそのようなヤキモキする気持ちは、

消費者である我が子が

ミクロ経済学が述べる、まさにそのまんまに

「自分の効用が最大になるように（スナック菓子とかカップラーメンみたいな）魅惑的なフードばかり食べてしまっているのでは」

と、

「遠く（＝柏崎）にいて、親の目が届かない息子の姿」を心配しているのです。それはまさに**君たちがミクロ経済学の描く消費者の姿そのものである（自分にとって心地いいものに固執する）ために、心配している、ということなのです。**

そんなわけで、繰り返しになりますが

人は、「自分の買うことのできる範囲内」で、自分にとって、一番幸せになれるようにいろいろな財やサービスを買っています。

そしてミクロ経済学の「消費者の理論」とはそのような人々の姿をモデルとして「自分たちはこんな風になっているんだよね。そうだよな？」とって「描き出している（＝客観視している）」だけ、です。

なんだかんだ言いつつも、俺たちはこんな風に、行動しているな、と「（しみじみと）思う」ことが、消費者の理論を「理解した状態」ということに、なります。

それは、「理解」というよりは「納得」と言った方がよい（適切）なのかも知れません。

（納得する、とは「そうか、そういうことなのか。なるほど。」ということ）

想像してみてください。。。

幼稚園児の「しんのすけ君」はチョコビと、チョコビ以外の、とにかくお菓子が大好き。かあちゃんのみさえがくれる毎日のお小遣いで「チョコビと、チョコビ以外のお菓子を買って」日々をととてもとても幸せに暮らしている。。。。

ミクロ経済学の理論は単純で、人々の消費行動というのは「買うことのできる範囲」で、その人にとって一番うれしいように、財やサービスを買っている（それぞれの財やサービスの買う量を決めている）はず、というもの。

そして、「その様子は、こんな風だよ。違う？」と言っているのがミクロ経済学の消費者の理論だ！

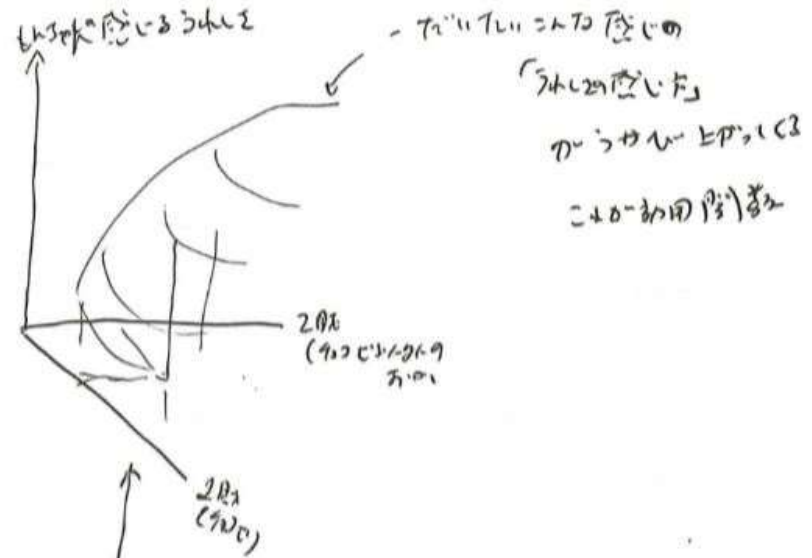
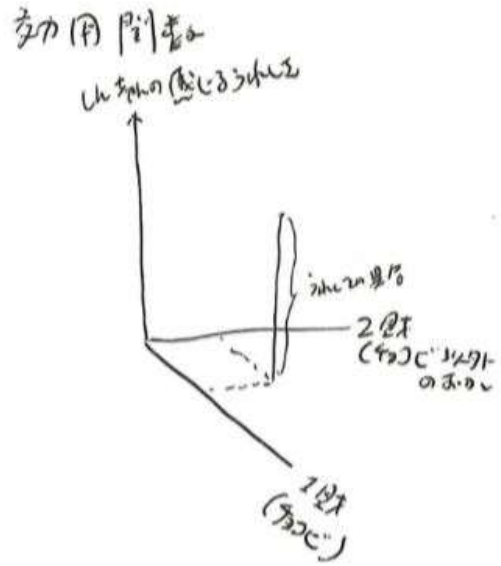
「買うことの出来る範囲」は、分った。

次に、しんちゃんの「好み」(チョコビと、チョコビ以外のお菓子について、しんちゃんはどんな反応を示す人であるのか)を想像してみよう。。。

DATE

ミクロ経済学の復習

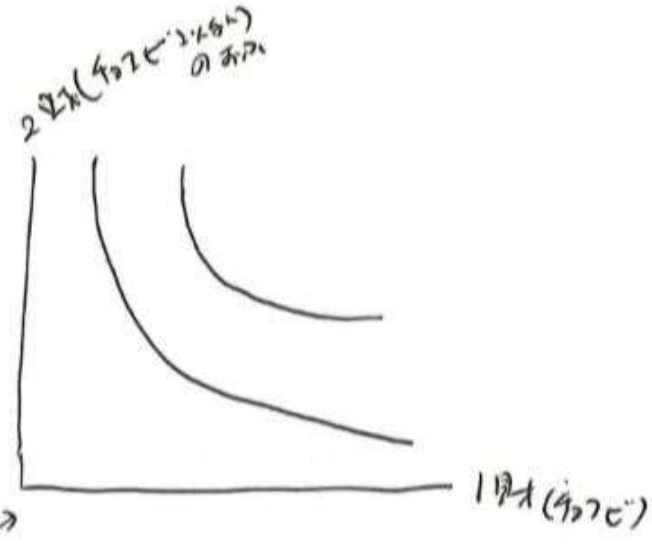
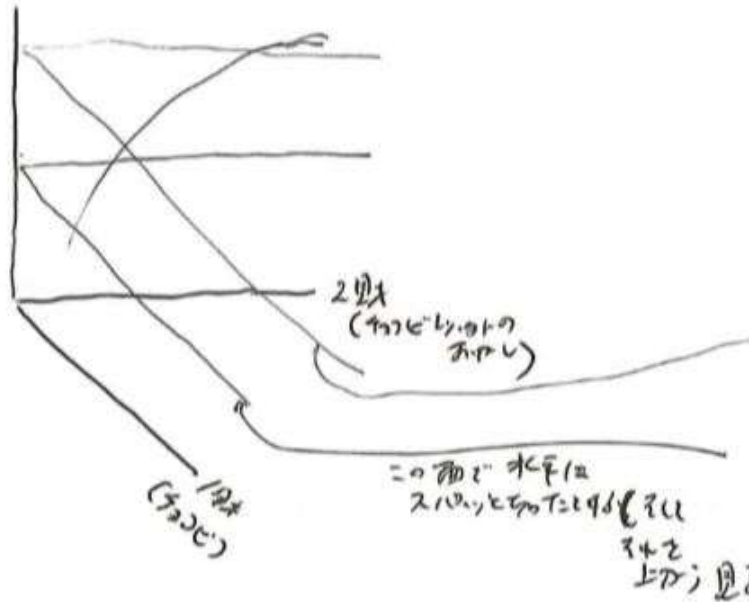
1. 消費者行動の理論



効用関数形... 人によって個人差がある。人が2である以上、この範囲を感じる範囲 shape をしては

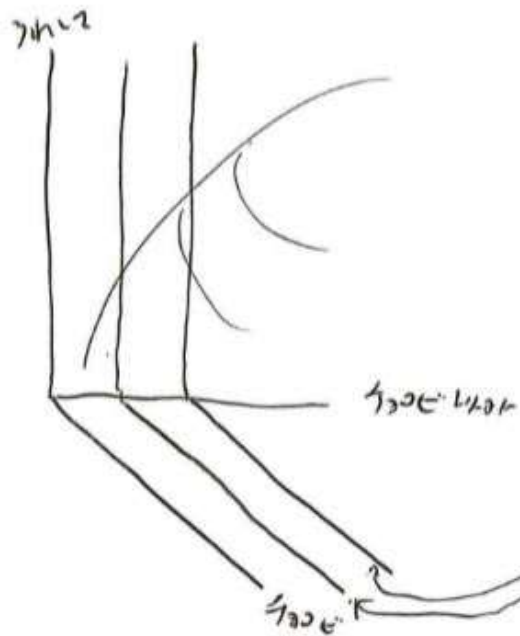
知用財の形... 人による個人差はあるが、人が入る以上、^{この} ~~形~~ shape をとるはず
 → 形が見える

(i) 水平に伸びると、その形は

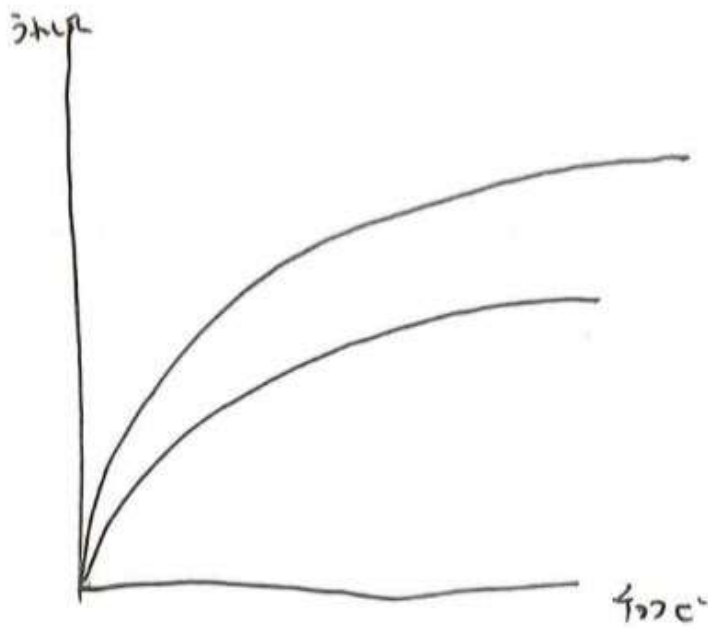


ሆስፒታል

(ii) የገንዘብ ስጦታ



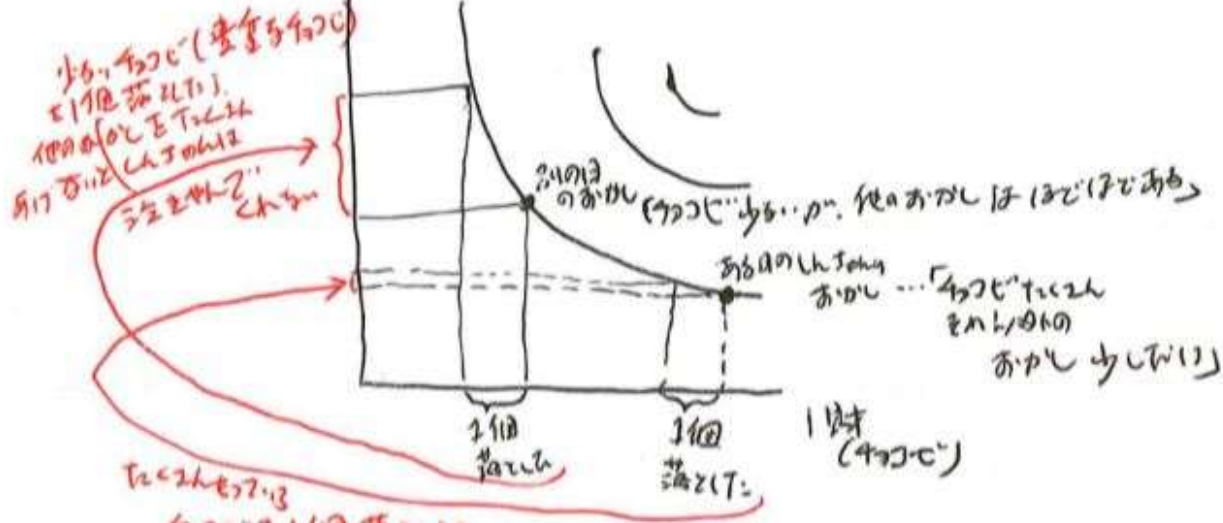
የገንዘብ ስጦታ
የገንዘብ ስጦታ
የገንዘብ ስጦታ



3次元空間の shape (グラフ)

(i) 水平に切った時の形状 (= 等高線)

2次元 (4次元以外の次元)

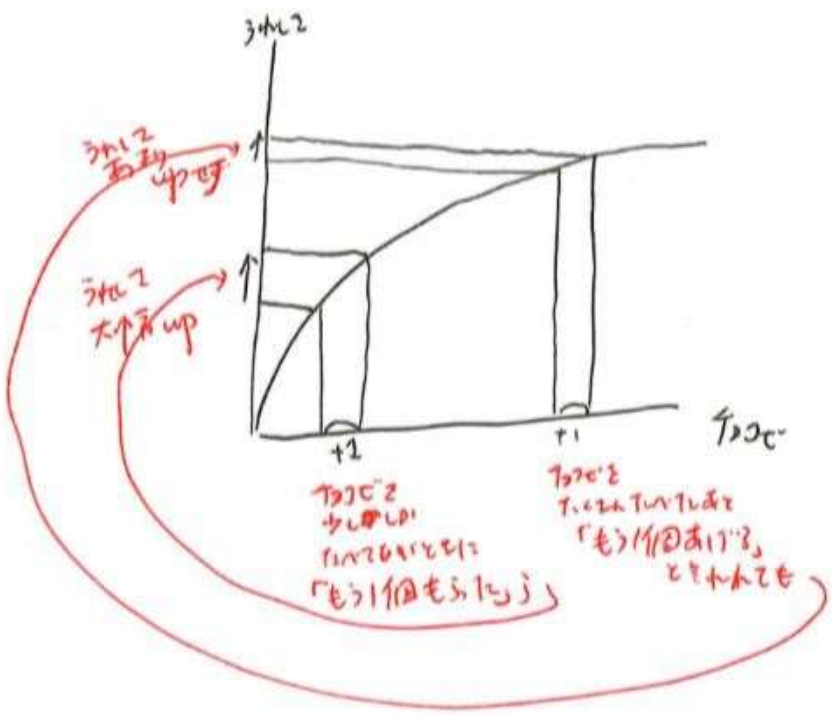


少く、4次元 (次元が4次元)
 1次元 (次元が1次元)
 他次元 (次元が2次元以上)
 次元が4次元以上

2次元の次元 (4次元) 少く、他次元はほとんどあり
 2次元の次元 (4次元) 少く、他次元はほとんどあり

次元が4次元以上
 4次元が1次元
 他次元を少しあり
 次元が2次元以上
 元次元 (元の次元が4次元) あり

(ii) 971207, 20 10712



限界効用逓減の法則

「人種、性別、年齢を
問わず
人口にわたる
あらゆる人々」
という。

「1人
もさ12
に
もさ1個
かゝる」(世に1人12)

「1人
もさ1個
かゝる」(世に1人12)

という。

「1人
もさ1個
かゝる」(世に1人12)

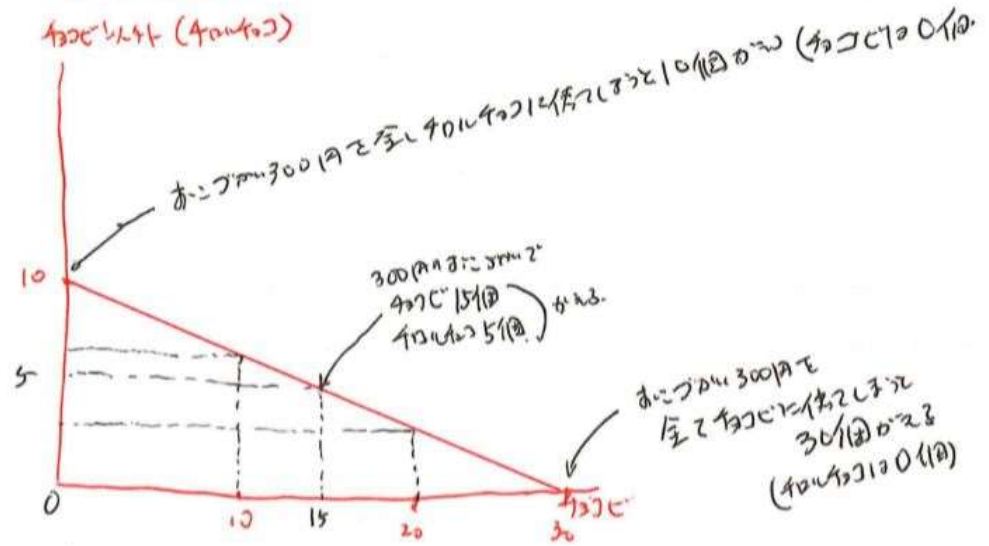
という。

まずは、「しんのすけが、日々、お小遣いで買うことのできる範囲」を考えよう。

予算集合 (Budget set) ... 所得で買えるものの範囲
(お小遣い)で買える範囲

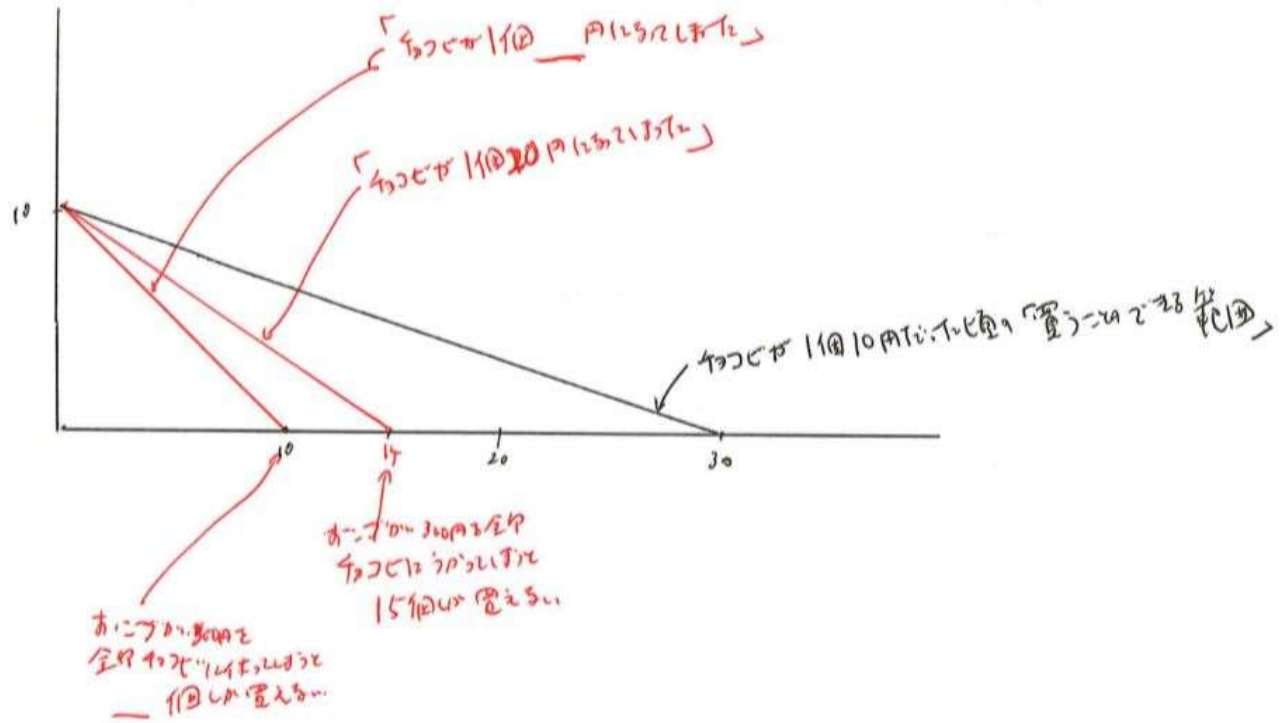
お小遣い 1個 10円
お小遣い 1個 30円
お小遣い 1個 300円

お小遣い以外 (お小遣い)

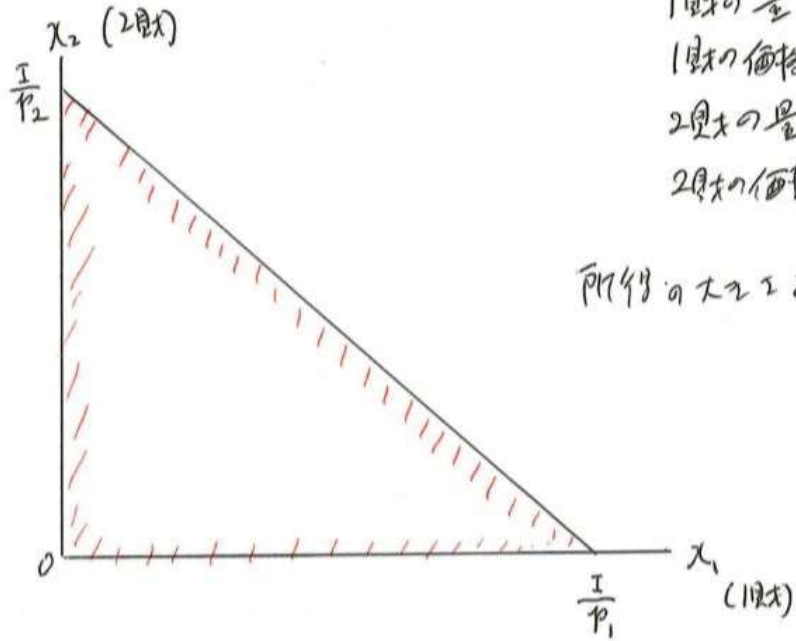


お小遣い 300円を
全てお小遣いに使えば
30個のお小遣い
(お小遣い 30個)

「 T_2 」
「 T_2 」の価値が上がる」



補足



通常

1財の量と x_1

1財の価格と p_1

2財の量と x_2

2財の価格と p_2

(← price of p)

所得の大きさと I

(← income の i の大文字)

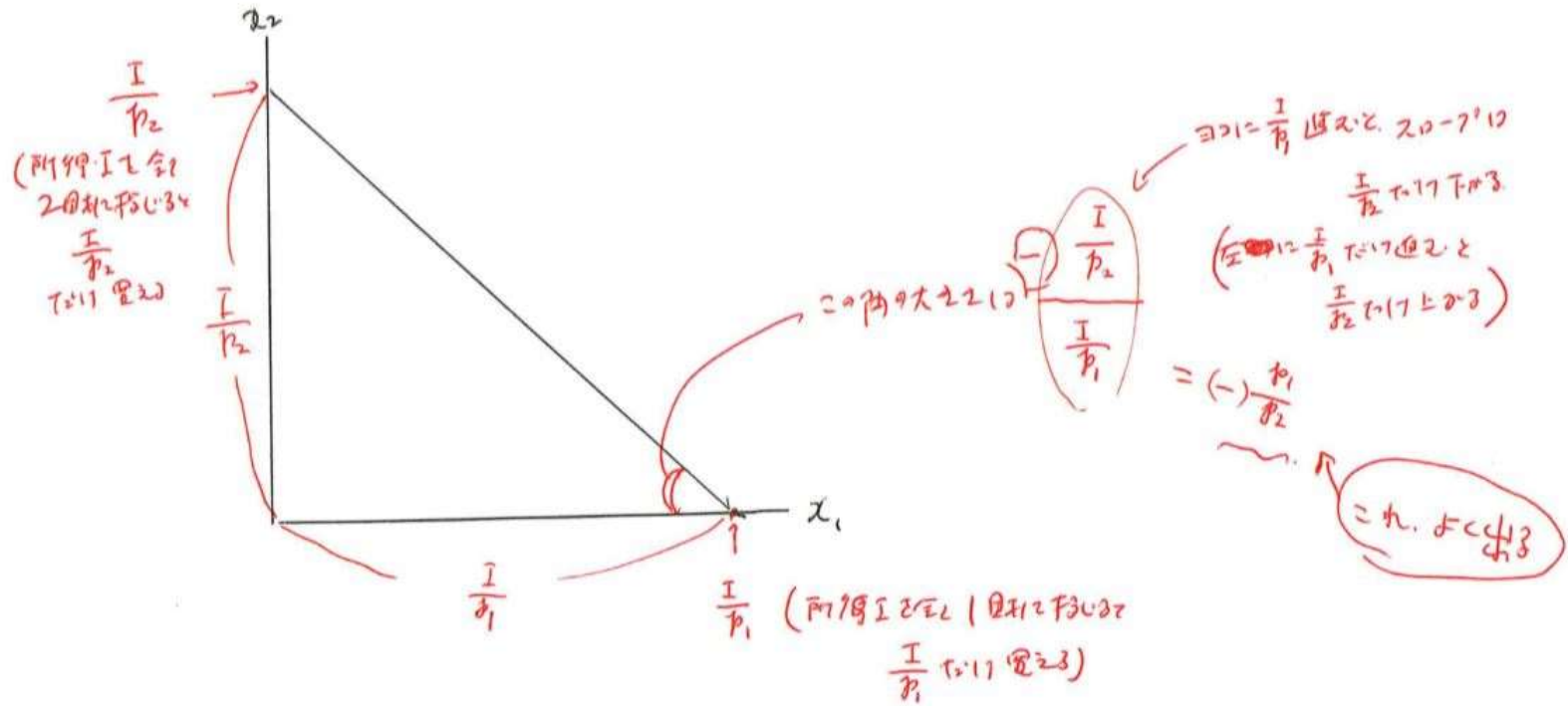
一般的には、予算集合は、

$$p_1 x_1 + p_2 x_2 \leq I$$

を x_1, x_2 の組合せの場合

($p_1 x_1 + p_2 x_2 \leq I$ となる、あらゆる x_1, x_2 の組合せ)

國際經濟學之重要



消費者選択の理論

...「人は、自分の所得で買える範囲内で、

自分が最も満足に思えるモノを買って消費する」
(「ハズ」 という内容)

